

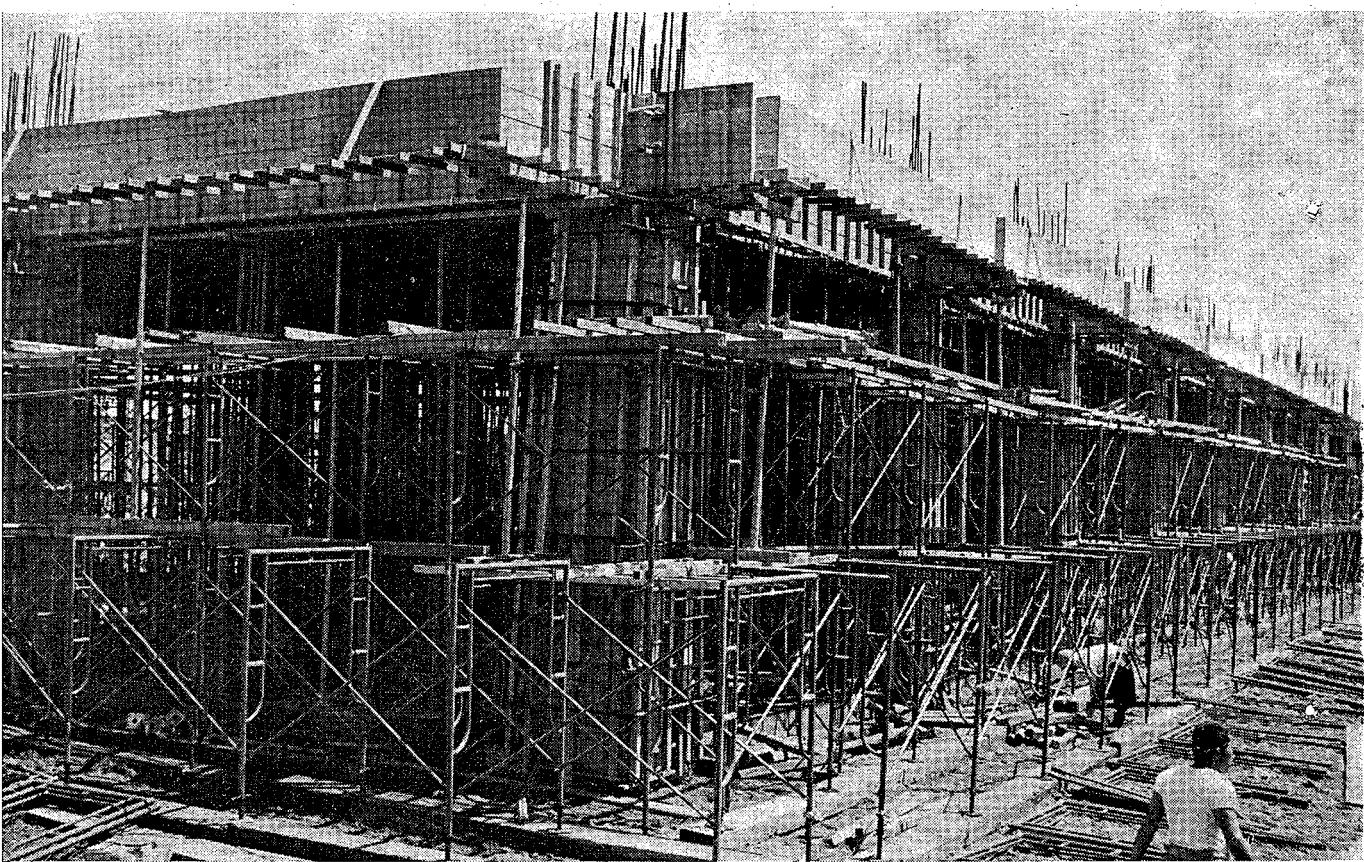
広報こじがや

5月15日

1968・NO.326

主な内容

- ◇…春の全国交通安全運動……… 2
- ◇…ヒヨウ雨で農作物に大被害… 3
- ◇…市史編さんだより…………… 4
- ◇…わたしの発言…………… 4
- ◇…スポーツ教室ひらく……… 5
- ◇…機械化でごみ収集…………… 6
- ◇…老後の保障は年金で……… 6
- ◇…国保・海の家・山の家……… 7
- ◇…燃えないごみの収集日……… 7
- ◇…スピーカー、こよみ…………… 8
- ◇…市民ハイキング…………… 8





11日～20日 春の全国交通安全運動

市民の安全を守る交通指導員

激増する交通事故は他人ごとではなく、私たち市民生活に大きな影響を及ぼす社会問題となっています。

春の全国交通安全運動は十一日から二十日まで実施されておりま

すが、この催しも単なる年中行事として終らせることがなく、市民一人一人の新たな自覚と安全対策の根本的な認識が必要です。

そこで越谷市では、市民の交通安全を図るために交通指導員の配属、交通傷害保険の設立、交通事故相談所の開設、学童園児事故防止協議会などをつくるとともに、一方では交通危険箇所の横断歩道橋の設置、信号機の設置、ガードレールの設置など関係機関に積極的に働きかけて、施設の整備につとめておられます。

しかしふさわしいばかりの事例、これに伴う道路、安全施設などの公共事業の遅れは現実の大きな課題ですが、事故を起さないための安全な運転、安全な歩行は私たちが守らなければならない最少の規則です。必ず交通規則を守って事故を起さない、事故にあわないようこしなければなりません。



学童の登下校を

守る交通指導員

交通指導員十名の委嘱式は四月

二十七日に行なわれ、今月から市内の四箇国道、バイパスなど主要

交差点に立つて交通指導をおこなっています。

指導員の任務は主として学童、幼稚園の登下校時の誘導保護で、そ

のほか、歩行者、自転車乗りに対する正しい通行の指導、交通渋滞

交通混雑および交通事故発生時ににおける交通の整理指導などを行な

ります。

大塚 千代吉（瓦賀根一六六）
交通指導員名

中島 繁治（東方二三三三）
中村 利久（麦塚一九五）

須賀 勝治（東小林一、三三）
九

中島 繁輔（南葛城五）
山崎 純一（下間久里四）
（袋山一〇七）
（船渡二、〇九）

（一）

表紙の写真

来年三月完成をめざして、いま市役所庁舎の新築工事が

行なわれています。

福井会館と並んで、あたり

はすぐかり縁につつまれ、元

荒川にその姿をうつし出し始

め、さらに二階、三階と五階

までのびゆきます。

建物から内部設備、環境整備などおると千億円近い費用がかかる予定ですが、完成後は市民の庁舎として活用され、市民のためのサービスの充実がはかられます。

今月の納税

(5月)

国民健康保険税 第2期
今月中に市指定金融機関または納税組合へお納めください。

市史編さんだより

生活と健康



夏だからねもたくさん出回ります。レターミンの屋敷です。酸味の強いものは、身をぼぐして砂糖にぼぶして食べるんだ、たんへんおいしいのです。

五月の食生活

つゆを迎える準備

備を考えましょう。

五月は、野菜、くだもの、魚類が当季にあります。野菜はキヌサヤやソラマメが食べられる。キヌサヤ、ブタ肉の（ま）かく切ったのをいため、塩（ソシウ）してのまま食べるとなつぱりしたいへんおいしいもので、くだものではいちごが最盛期を迎える。安くもあり、いともおいしい時期です。栄養も豊富ですから、たくさん食べましょう。

- ：雨の日の洗たく。幼児や、衣服をよしがら小中児童のいる家庭では乾燥方法を研究すること。
- ：防虫剤・乾燥剤を忘れずに入れる。
- ：家の内外のゴミをとる。廊下の板の間、雨戸のさんなどにあるゴミは湿気を吸って家をいためます。排水ごとのごみなどの家の周囲をきれいにしておく。

處長九年（一六〇四）將軍職を
秀忠に譲つて太閤所と呼ばれるよ
うになつて間もない康矩が、越ヶ
谷の元荒川べりに御殿を建てた。
徳川実記には「埼玉郡増林村の
御離館を越ヶ谷駅にうつされ、浜
野藤右衛門某に勧善を仰付する」
とあり、將軍家政廳（慶狩）の際
の休憩や宿泊用に用いられた。
実記によつてその主なもの二、
三をひろつてみると康矩は慶長十
八年十一月二十日より二十七日ま
で越ヶ谷に滞在、連日鷺や鴈や鳴
鳥を観察してゐる。このことからも御殿が各所に建
てられていたのは、民情の視察など
いった重要な意味があつたことがわ
かる。さらに元和元年（一六一五）
十一月十日若槻より越ヶ谷に

来た家康は狩場に水が溢れて放鷹できなかつたのを終り、その地の代官を叱責している。この時は十五日まで五日間の滞在であった。また、代将章秀忠も元和四年十一月二十九日より十二月二日まで現在の日越ヶ谷御殿の地名がそこ江戸の大火によつて江戸城が焼失した際、越ヶ谷御殿をそのまま江戸城に移して仮屋に用いたので、この地は御殿跡となつた。

わたしの発言

わたしの発言

市民のための
自治組織の助成を

この春軒勤のため、近所の人々の縁出のお手伝いをうけて、越谷から長野に引越した。わずか数年の越谷の生活であったが、遅れがたい思い出が數多ある。そこで、地域の人々の腰がい心地に包まれながら日々を生活しているが、何のものにもかかわらず、たゞ、たとえ数年でも越谷市に縁をもつたことを非常にうれしく思つ。私は東京から南越谷に転居し、た当時はまだその付近は、田園都市の牧歌的雰囲気がいっぱいであった。しかし道はぬかるく、夜の屋外はまづ暗い。商店や医署も遠いといった有様で、日常生活はまさに心細い限りであつた。そんな時、前後して転居した上戸余りの人々が寄り集まって、土曜会などを結成した。毎第一土曜の夜に会合して、お互いの生活環境をよりよくするために、助け合つてゆこうというのである。

やがて、同じ地域のこうした小グループがいくつか集まつて、自治会が整備され、少人数の力ではできぬことをするとか、市当局への働きかけの窓口とした。おかげで防犯灯は立ち並び、井戸から上水道切り替えられました。時々みんなで人夫に出、道路の砂利入れや下水の清掃をしたのは苦しい思い出だが、子供たちのために、簡素な盆踊りや花火大会をしたり、餘切りバスで遠足に行つたのは樂しかった。

最近では、近くに商店街もでき徐々に生活は便利になつたが、まだまた全体の都市計画をはじめ道路行政、教育行政等々、市政上に残された問題はたくさんある。そうした問題解決のためにも、自発的に下から盛り上がつたのよな（自治的）組織を、市当局は一方的な上意下達の機関として利用することなく、真に下からの市民の声を聞く組織として、今後も助成していただきたいと思つ。私にとって越谷は第の故郷である。こうした市民の日々の努力を無にするのことはないよう、愛情あれば、きめの手まといで、市政を強く期待しているが、越谷市の今後の「層の発展」を祈つてやまない。（長野市下木宇三六九）

